

母の育児態度について——(三)

——母親の観た吾が子の理想像——



お茶の水女子大學
兒童研究室

和田典子

四、調査結果

理想像として十二の假定像を示し五つを品等選擇してもらった結果は次の如くであつた。

(い) 各像の得點

- イ、頭がよく勉強がよくでき意見の發表の上手な子 — 九・八%
- ロ、體が丈夫で手先が器用で運動や遊戯のよくできる子 — 七・六%
- ハ、常に身綺麗にして容姿がすぐれた立派な子 — 二・二%
- ニ、美しいものを好み、音楽や圖畫などの美しいものその他美しいものを見わけるのが正しくて鋭い子 — 三・二%
- ホ、心がひろくて人の言うことをよく受入れ落着いている子 — 一五・五%
- ヘ、仕事に熱心でよく働き骨惜みしないで怠けない子 — 一五・五%
- ト、知識が豊富でそれを應用する力があり、よく工夫し、物事の判斷が正しく自分で考え計畫的な行いをする子 — 一一・〇%
- チ、誰にでも親切で思いやりがありやさしい子 — 一四・〇%
- リ、人柄が朗らかではきくして面白いいことを言う子 — 一一・九%
- ヌ、他人と親しみ我儘なことをしないで仲良く一諸に力を合せてする子 — 一四・六%
- ル、自分の行いがしつかりして他人との約束は必ず守りどんなことでも責任を守り規則などをよく守る子 — 一五・八%
- オ、學級のことや皆のことによく骨折り、皆のためによく働き、自分のことより他人のことを考え、他人のためになる子 — 一一・五%
- キ、自分のことより他人のことを考え、他人のためになる子 — 二・九%

である。これによると、

(ホ)、心がひろく人の言うことをよく受入れ落ちついている子。

という理想像は總點の内一五・三%を占め最高位にある。母親たちが寛容、鷹揚など雅量のある性格を好み、情緒的安定性を第一にとり上げている事實は首肯できるが、この性格に積極性の見られないのが物足りない。次は、

(ト)、知識が豊富で物を應用する力があり、よく工夫し、物事の判断が正しく自分で考え計畫的な行いをする子。

——一四・〇%

である。このように効用性の高い現實生活に直接役立つ特性が選ばれるのは經濟生活に深い關係を持つ母親たちの日常から必然的に求められるものなのである。この像は(ホ)項の消極性に反しきわめて積極性を持つている。第三位は、
(チ)、誰にでも親切で思いやりがありやさしい子。

——一一・九%

である。こうした愛情型の像は母親達にとつてはやはり大切な見落せぬものなのである。

等四位にとり上げられたのは、

(ル)、自分の行いがしつかりしていて他人との約束を必ず守りどんな事でも責任を守り規則などよく守る子。

——一一・五%

である、この像は社會生活への適應を特質としている。その他の順位は、

(ハ)、仕事に熱心でよく働き怠けない子、の一一・〇%ついで(イ)、(ロ)、(ヌ)、(リ)、(ニ)、(オ)、(ハ)、(ヌ)、(オ)となつて、例えば(ヌ)、他人と親しみ我儘なことをしなさいと仲良く一諸に力を合せてする子。とか、
(オ)、學級の事や皆のことによく骨折り、皆のためによく働き、自分のことより他人のことを考え他人のためになる子。などの如く積極的な社會的性の像は省られていない。

(ろ) 兒童の理想像

前述した後藤氏の『兒童の假理想の兒童』について検討してみると、小中學生の年令にある兒童は次のような選擇をしている。(註)第七回應用心理學會に於て發表されたグラフによる。]

しかし、彼等の選擇には年令による差異が相當著しいのでこゝでは小學校一年、五年、及び中學三年級の兒童のものを抽出して調べてみることにした。まづ一年生では、

- ① (イ)頭がよくて勉強がよく出来、意見の發表の上手な子
 - ② (ト)知識が豊富でそれを應用する力があり……
 - ③ (ヌ)他人と親しみ我儘なことを……
- の順であり各像の得點が極めて近似している。五年生になると、
- ① (オ)學級のことや皆の事によく骨折り……
 - ② (イ)頭がよくて勉強がよくでき……
 - ③ (チ)誰にでも親切で思いやりがあり……

となり學級生活と關係深い特性が高く評價されている。又、(ロ)、體が丈夫で手先が器用で、運動や遊戲のよく出来る子は第四位に位し Gang age とされるこの時代の身體的、行動的な生活がうかがわれる。そして各像の得點の差異がやゝ明瞭になり初めている。中學三年ではこれがいよゝ明白に現れその集團の評價態度の方向が把握できるよになつてくる、その順位は、

- ① (ト)知識が豊富でそれを應用する……
 - ② (ル)自分の行いが正しく……
 - ③ (オ)學級のことや皆のことに……
- で、實際的、積極的、社會的である。又母親では最上位を得た、

(ホ)、心がひろく人の言うことを受入れ落ちついている子は、五年でも中學三年でも問題にされていなが、之に反して母親に等閑視されていた。

(オ)、學級の事や皆のことによく骨折り……の得點は年令と共に漸増する傾向がみられ、こうした社會的關心が年令と共に増加することは彼等の發達と關係深いもののあることが知られる。

以上、十二の理想像の個々について考えてみたが、これらを一層簡明なものとするために各像をその特質によつて四群に集約して検討してみることにする。

(は) 母親の理想像

(イ)、(ロ)、(ハ)の如く素質的、生得的な特質をもつ理想像群を假に「素質的像」と名づけ、(ニ)、(ホ)、(チ)、の如き情緒的特質の豊かなものを「情緒的像」、(ハ)、(ト)、(リ)の如く實際的、行動的特質のものを「行動的像」、(又)、(ル) (オ)の如き積極的な適應性をもつものを「社會的像」などの如く分類假稱しこれら四つの類型群の得點を地域別、階級別、母親の、年令別等に集計し比較してみたところ以下の様な結果が得られた。

(A) 地域別得點

地域	員數(人)	素質的像(%)	情緒的像(%)	行動的像(%)	社會的像(%)
東京	一九七	一六・四	三三・〇	二九・四	二一・二
地方都市	二五三	一九・三	三〇・五	二九・二	二一・〇
農漁村	二一四	二二・五	二八・三	三〇・九	一八・三
總員	六六三	一九・八	二九・七	三〇・〇	二〇・五

右の表によると總員の得點は情緒的、行動的像がほゞ等しく高位を占め、素質的、社會的像が低くなつてゐる。併し兩者の差が大きくない事から母親たちの理想像の類型は必ずしも一定の傾向を持つものではない事が知られる、言いかえれば單純な原型ではなくどの面にも優れた混合的なタイプの理想像が求められていることが推定されるのである。

又、この表には地域によつて素質的、情緒的像群の得點にある程度の傾向がみられる、つまり素質的像の得點は東京一六・四%、地方都市一九・四、農漁村二二・五%であつて、

『頭がよい』とか『體が丈夫で器用』とか、『容姿がすぐれてゐる』とか言つた理想像は田舎の母親の方に稍多くの支持者が見られ、之に反して情緒的像の得點は東京三三・〇%、地方都市三〇・五%、農漁村二八・三%で『美しいものを好み、鋭く感じとる子』とか『心がひろく人を容れる子』とか『誰れにでも親切な子』とかいつた像は都市の母親の方にやゝ多くの支持者をもつてゐる事が知られる。

(B) 階級別得點

項目	員數 (人)	素質的像 (%)	情緒的像 (%)	行動的像 (%)	社會的像 (%)
職業階級					
専門的	一一七	一六・七	三三・一	二八・四	二二・八
半専門的	二七七	一六・七	二八・九	二九・〇	二五・四
熟練	一九七	二四・〇	二八・三	三〇・〇	一七・四
その他	七三	一六・一	三三・六	二八・三	二二・一
總員	六六三	一九・八	二九・七	三〇・〇	二〇・五

職業による階級間の各像群得點を比較すると素質的理想像の支持率は熟練職業階級に高く、専門的及半専門的職業階級では他のいずれの像より最も低い。情緒的像は専門職で高く社會的像は熟練職業階級では最低に評價されている。この場合も行動的像の得點はほゞ等しい率を示している。しかし行動的像の他の像に對する得點率は一番高くなつてゐる。これら

を見ると現實的な効用性が如何に母親たちにとつて切實な問題であり、殊に中・下層階級の母親達の大部分は Spranger の言う『經濟人』であることが推定されるのである、又上層階級の母親たちには『審美人』が比較的多く『社會人』はむしろ中層に多いことも考えられる。

さて、兒童の觀た兒童の理想像には年令によつて發達のな差異が認められることは既に述べた通りであるが、母親たちでは年令によつて育児の理想はどの様な變化をするものであろうか。この疑問に答えるために前に四つ理想像群の得點を母親の年令によつて集計してみたところ次表の如き結果が得られた。

(C) 年令別得點

項目	員數 (人)	素質的像 (%)	情緒的像 (%)	行動的像 (%)	社會的像 (%)
年令 (歲)					
二九	六九	一八・九	三四・〇	二七・五	一九・四
三〇	一一三	一八・五	三三・二	二八・七	二〇・六
三一	一三八	一七・六	二六・一	三三・一	二二・一
三二	一六五	二一・一	二九・二	三〇・二	一九・五
三三	一四五	二二・五	二六・六	三一・六	一九・三
三四	七八	二二・八	二八・四	三一・〇	一六・八
三五	七〇	二二・八	二八・四	三一・〇	一六・八
總員	六四三	二〇・二	二九・三	三〇・五	二〇・一

表によれば素質的像を理想とする率は三五—三九才で最も低く、若年では少々高め、高年になるにつれて上昇してゆき、情緒的な像を支持する率は、年令の進むにつれて下降し

四〇才頃から一定するが、こゝでも三五——三九才で最低である、又行動的理想像は年令の進むにつれて上昇の傾向にあるが最高は三五——三九才の年令層である。社會的理想像を選擇する母親は三五——三九才を頂點にして高年、若年共に漸減し、素質的像の得點と表裏の關係をなしている、これらの結果から次の事が考察される。

(二) 結果の検討

若年の母親従つて子供の年令の幼い母親たちは情緒的なタイプに理想をおく者が多いが年令が進み、従つて子供が成長するにつれて現實的、効用的なタイプを理想とする様になる。

三五——三九才の年令層の母親の評価態度には一つの特徴が見られる。これはこれらの母親たちが自己の意見とか見識とかを可成明確に把握していることの一つの現れ、と見られないものであろうか。

五〇才以上の母親たちは素質的な物を期待したがより積極的な社會生活への参加には關心のうすい事が知られる。三五——三九才という年令は所謂『世帯盛り』と稱される年代で、この母親たちが最も社會的であり、行動的な像を高く評價するのはその生活空間が擴大する時期であるためであり、従つてこの年代の母親たちの育兒態度は最も積極的な傾向を示すものであると思われる。

(ほ) 母親と兒童との比較

(D) 兒童による年令別得點(概算)

學年	項目	得點				
		員數	素質的像 (%)	情緒的像 (%)	行動的像 (%)	社會的像 (%)
小一	三	三〇六	三一・〇	一九・三	二二・七	二七・〇
四中	六	二七三	二二・四	一九・〇	二二・〇	三五・六
一中	三	二九七	一五・七	一八・〇	二六・八	三九・五
總員		八七六	二三・〇	一八・八	二四・二	三四・〇

右の表は既述した兒童自身の理想像をその學年によつて三期に分け概算集計したものであるが、これによると、先づ總員の得點比率は、

(理想像類型群) (兒童の評點%) (母親の評點%)

素質的像 二二・〇 一八・八 一九・八

情緒的像 一八・八 二二・四 二九・七

行動的像 二四・二 一九・〇 二二・〇

社會的像 三四・〇 二二・七 二七・〇

で母親の評點と比較すると右表に見られる通り社會的像に對する評點がはるかに高く、情緒的像えの評點の低いことに氣がつくのである。又兒童の年令の上から検討してみると素質的像の得點は年令と逆行して低下し、社會的像は年令と共にその得點を増加しているが行動的像と情緒的像には年令に

よる大差がみられない。この社会的な理想像に對する評價が年令と共に高くなるとする結果は、一九三〇年の D. S. Hill の發表や一九四六年の Stouffton, Ray の兒童の理想の人物をしらべた研究に於ても指摘されている通り、このことが「兒童の生活空間の擴大」を意味するとすれば、高年の母親たちの非社会的態度の傾向も容易に首肯できると思われるのである。

(八) 事例

以上述べたのは回答の統計的處理の結果についてであつたが、回答の中から、二、三の事例をひろつてみたいと思ふ。

例(一)——東京山手地區、三四才、二女兒有り、高等教育をうけた信念的な生活態度の母、家庭の職業は研究所員で彼女の理想像の評價は次の通りであつた。

- 一、(ニ)——美しいものを好み……
 - 二、(ロ)——體が丈夫で手先が器用で……
 - 三、(リ)——人柄が朗らかではきくして……
 - 四、(オ)——學級のことや皆のことに……
 - 五、(ト)——知識が豊富でそれを應用する……
- この母の長女は描畫がすきで、いつも身綺麗にして口數が少なくてくくして誰からも愛され母の理想をそのまゝに具現したような子供であつた。

例(二)——東京山手地區、三八才、一男兒有り高女卒、夫は新聞社員である。結婚後數年目に初めて恵まれた一粒種

を兩親は異常なまでの細心さで熱心に養育している。この母の選擇は、

- 一、(ト)——知識が豊富でそれを……
- 二、(ル)——自分の行いがしつかりして……
- 三、(ホ)——心がひろくて人の言うこと……
- 四、(ヌ)——他人と親しみ我儘なことを……
- 五、(チ)——誰にでも親切で……

となつて社会的理想像、情緒的な安定性に多くの關心をよせている事が知られ、一人子に見られ勝なこうした點の足りなさを充分感じてゐる事が推量されるのである。

例(三)——西宮市在住、四七才、會社員家庭の母、男五名、女三名の育兒經驗をもち(高女卒)の場合、

- 一、(ホ)——心がひろく人のいうことを……
 - 二、(チ)——誰にでも親切で……
 - 三、(ハ)——仕事に熱心でよく働き……
 - 四、(ニ)——美しいものを好み音楽や……
 - 五、(リ)——人柄が朗らかではきくして……
- でありこの母親が「審美人」であることが知られる、この年令でこれだけの子供を持つ人としてはめづらしいタイプである。彼女の家庭はさぞかし和やかな明るい空氣に満ちてゐることであろう。

例(四)——漁村の母、四二才、小學校卒で男女七兒をもつ場合は、

- 一、(チ)——誰にでも親切で……

二、(イ)——頭がよくて勉強がよく出来る……

三、(ヘ)——仕事に熱心でよく働き……

四、(ト)——知識が豊富でそれを應用する……

五、(ハ)——常に身綺麗にして……

であつた。農村及漁村の母には(ヘ)、(ト)、(ハ)、(リ)、等の如き像を高く評價した者が多かつた。多忙な生活に追われて子供たちの身の廻りの世話にも充分の手が届かない農家、漁師の母たちが(ハ)をえらぶ事實に、彼女らの哀しい願いを聞く心地がする。

例(五)、最後に都市に住む人夫の妻、十八才を頭に六人の子をもつ小學校卒の母は、

一、(ロ)——體が丈夫で手先が器用で……

二、(ヘ)——仕事に熱心でよく働き……

三、(チ)——誰にでも親切で思いやりが……

四、(リ)——人柄が朗らかで……

五、(イ)——頭がよくて勉強がよく出来る……

である。労働者階級では(ロ)、(ヘ)などが重要な特質とされていることは切實な生活的欲求として充分理解出来るのである。

以上の各事例にも見られる通り母の描く吾が子の理想像には彼女自身の發養、夫の職業、家の經濟狀態、子供の數などの生活環境と深いつながりがあり、又その選擇の態度にもいくつかのタイプのある事が知られるのである。

五、結 び

既述した調査結果をまとめると次の諸點が考えられる。

一、母親の觀る吾が子の理想像は、多様な特質を併せ持つ混合型で特定のタイプを持つていない——言いかえれば母親達の理想像はまだ動搖していて確立していないが、その傾向は個人的、行動的な像え多く向い、積極的な社會性を重視してゐない。

二、又その理想像は母親の年令(従つて子供の年令)、教育程度、家庭の職業、子供の數、子供の素質、性格などによつて異なる。即ち、若年又は子供の幼い母親、及び知的、専門的職業家庭の母は、情緒的な特質像を理想とするものが多いが老年及び熟練労働階級、教育程度の低い母親たちは現實生活に効用の高い實際的、行動的な能力のすぐれた子供を理想とし、又素質的な特質(知的、身體的)に多くの期待をよせる傾向がみられる。これらの事から現代性的人格類型として多いのは Spranger の所謂「經濟人」、「審美人」で、「社會人」はごく少いことが推理される。

三、母親の理想像選擇の態度には三つの類型が見られる。

(1)は母親自身の理想を表現するものであり、(2)は子供自身の現實から求められるものであり、(3)は生活の必要から希まれるものである。

(四七頁上段へつゞく)

(十五頁から)

四、母親の年齢によつて子供の理想像は推移して行く。これは母親自身の生活態度の推移従つて彼女らの育児態度の變遷を物語るものと思われる。最も積極的、信念的なのは三五―三九才の年代でこの以前及び以後は漸次消極的になつてゐる。

五、母親の觀る子供の理想像と兒童の求めている理想像を比較すると、兩者は廣い意味での社會的適應型である點では一致しているが、母親は情緒的像を強く望み消極的な適應型を理想としているのに反し、子供はもつと積極的な社會的を高く評價し情緒の安定に満足していない點に相違がある。

六、母親の「育児態度」が乳幼児期の子供に對して情緒の安定、家庭への適應に重點を置いてゐる事は妥當であるが學童期に入り子供たちが成長して、その學級生活、交友生活が次第に大きな空間を占てくる様になると母親の求めるものが子供の現實に即さない場面を生じ易くなることが考えられる。

子供たちは生長するにつれて母親以上に「社會人」になる母親たちは自己の生活空間を擴大することに留意し子供たちと共に進歩する様にしたものである。

人間科學としての心理學

小保内虎夫

兒童のみた理想の兒童プリント

後藤岩男

Journal of "Social Psychology", 1930

Journal of Experimental Education 1946

The young child in the Home 1929

(一九五〇・六・二五)

(二九頁より)

○このワークシヨップで學んだものを幼稚園教育の實際に生かして他にも廣めてもらいたい。

○小學校と一體になつて幼稚園教育の發展を計る様希望する。

以上の話があり全員は各地、各縣に歸つて「幼稚園の増設に努力する」申し合せをして散會致しました。

此の五日間の間に幼稚園班の最も大きな收獲として考へられました事は、此の班にいらしやつた小學校の先生方が、非常に幼稚園に關心を持たれ「幼稚園は必要ですね」「歸つたら増設に努力しますよ」と大いに認識を深められた事でした。一人でも多くの方達に正しい幼稚園の姿を知つていただき、組織の強化を計つていくのは何よりも大切な事であると思ひます。

今一つの收獲は、幼稚園の立場にある者は、一應自分の毎日をふり歸り、幼稚園の目的、幼稚園の地位、はたしてどれだけ自分達が實行してゐるであらうか、一般社會人にも理解してもらふ様だけだけの努力を拂つてゐるであらうか、そう考へて深く／＼反省させられた事でした。

おわび——前號「母の育児態度について」の執筆者和田豊子氏は和田典子氏の誤植です、謹んで筆者並びに讀者各位におわびいたします。